

期待された秋需も乏しく、景況感は停滞

10月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

期待されていた秋需も乏しく、需要や売上の低迷が続き、景況感は依然として足踏み状態にある。また、前月の天候不順の影響が各方面に及んでいる中で、明るい材料は少なく、求人難に伴う人件費上昇が経営を圧迫している。

製造業	食料品		パンは業界の高付加価値路線へのシフトにより中小ベーカリーが苦戦している。菓子は後継者不足やコンビニエンスストアの影響等により廃業する店舗が散見される。製麺は自家製麺を使用するラーメン店の増加により苦戦が見られる。
	繊維・同製品		伊勢崎織物は伊勢崎銘仙の認知度が向上するも売上は伸び悩む。繊維製品はデパートや百貨店の廃業に加え、円高による輸入品増加で受注量が落ち込む。レースは高齢化社会に即したインテリア商品の必要性を実感している。
	窯業・土石製品		生コンは一部地域を除いて厳しい状況が続き、年間でも前年割れの見通し。コンクリートブロックは低金利に伴う建物の供給過剰を懸念している。砕石は吾妻・東毛方面で販売価格が上昇するも、景況感悪化に歯止めがきかず、厳しい状況。
	機械・金属		依然単価引き下げや短期納品等の要請が続く。富士重工関連は高操業が続くも、二次下請企業の利益上昇には至らない。鍍金は自動車のリコール問題が一段落し、生産量が増加傾向にある。他業種では前年比3分の1の売上に落ち込む下請企業が散見される。
	その他の製造業		木材は原料高が続く中で流通量が減少している。印刷は売上増加等で年末に向けて期待感が高まる中、人件費等の高騰が利益を圧迫している。ゴムは零細企業が最低賃金引上げに伴う人件費上昇に苦慮している。
非製造業	卸売業		高崎卸は人材確保に向けた事業を開始している。農産物卸は引き続き相場が高騰し、全ての品目で値上がり・品不足の状態になる。水産物卸は一時円安に振れたことによる、冷凍品の輸入コスト増で販売価格が上昇し売上減少となる。
	小売業		燃料小売は需要が横ばいの中、原油価格の上昇は一段落する見通しである。生花小売は前月の天候不順の影響で、メイン花材となる大輪菊等が不足し苦戦している。商店街はイベントや祭りが各地で開催されるも集客効果に格差が見られる。
	サービス業		温泉旅館は前年のプレミアム宿泊券利用による宿泊者増の反動減が見られる。不動産取引は、吾妻郡域における人口流出・減少による空き家増加が顕著になる。建物設計は多様化するニーズの中、技術・知識の集約が課題である。
	建設業		解体工事は固定資産税の関係で、年内を期限とした発注が増加する見通しである。電気工事は継続的に受注を確保しているが、収益状況は依然として厳しい。塗装工事は天候不順による前月の遅れにより、工事が重なり人手不足である。
	運輸業		全般的に荷動きは低調となる。長距離輸送においては長時間労働の問題もあり、配車に苦慮する場面が散見される。燃料の値上げ傾向を不安視している。小型運送は売上がほぼ横ばいの中、自動車部品関係は長距離輸送の増加により好調となる。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 114.0(前月比+0.8%)「県統計課・9月」
- 住宅着工戸数 1,123戸(前年同月比▲10.7%)「県建築住宅課・9月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.02倍・有効1.46倍「群馬労働局・9月」
- 大型小売店販売額 188億円(前年同月比▲0.9%)「経済産業省・9月」
- 消費者物価指数(全国) 99.8(前年同月比▲0.5%)「総務省統計局・9月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)